



《ニュースリリース》

スポーツ×草刈りで、
地域の課題を「楽しく」解決するプロジェクト！！
「BOSO(房総×防草)草刈りサミット 2020」を開催
並びに、同サミットの「第8回スポーツ振興賞」受賞のお知らせ

千葉県鴨川市で2020年11月6日(金)に「BOSO(房総×防草)草刈りサミット2020」(共催:鴨川市中山間地域等活性化協議会、一般社団法人ウェルネススポーツ鴨川)が開催された。

この取り組みは、里山の環境保全を目的として、重労働とされる草刈りにスポーツのもつ「楽しさ」の要素を加えて競技会を行い、地域課題を楽しく解決につなげようとするもの。

同市の農業従事者からなる鴨川市中山間地域等活性化協議会の会員を中心に、鴨川市農林水産課、里のMUJI みんなみの里、国際武道大学、JTBなどから参加者約30名が集い、市内山間部である平塚地区房田区棚田の耕作放棄地を舞台に「草刈り」の技術を競い合った。



選手たちは2人1組のチームとなり、くじ引きで割り当てられた区画に繁茂した草をいかに美しく刈り取るかを競う。審査は鴨川市中山間地域等活性化協議会の幹部が務めた。

競技中は同協議会の農業従事者が、草刈りに慣れていない若手の参加者に技術を教える場面もあり、和やかな交流の場ともなった。

優勝者は同協議会から参加の大幡地区代表チーム。今年度は丈の高いセイタカアワダチソウが繁茂する例年のない厳しいコンディションであったが、参加者からは「たいへんだったが、ストレス解消になった」「楽しかった。次は入賞を狙いたい」などの声がきかれた。

同協議会では、今後も集落間の交流の場を設け、

協力し合っ、里山の保全という地域の課題を解決していきたいとしている。また、次回以降は一般の参加者枠を拡大することも検討している。

現在鴨川市では少子高齢化・過疎化による後継者不足等で休耕田や耕作放棄地が増加。繁茂した草木が有害鳥獣の温床になり、深刻な農作物被害が発生している。同市中山間地域等活性化協議会では草刈を行い保全に努めているものの、重作業のため高齢者が多い農家にとっては厳しい現状。ネガティブな印象の強い草刈りをスポーツととらえ、「楽しみ」や「競技性」の要素を加えた「スポーツ草刈」は、そうした背景を抱えた地元農業関係者が主体となり取り組んでいる。今年で3回目を迎え、関係者は今後も取り組みを発展させていきたいと話す。

なお、このほど当サミットが第8回スポーツ振興賞(主催:公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会、一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構[JSTA])にて「一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構 会長賞」を受賞。12月2日に東京ビッグサイト青海展示棟で開催のSPORTEC2020の中で行われる授賞式に関係者が出席する予定。

実況放送をききながら競技を眺める参加者たち



◆「一般社団法人ウェルネススポーツ鴨川」について

2019年3月に設立された地域スポーツコミッション※。鴨川市において、地方自治体や地域の団体・大学などと連携して、地域資源を活用したスポーツによる地域活性化に取り組む。活動のコンセプトとして「ウェルネス」をかけた、その意味を「人々の心身が健康であること、同時に地域社会も健康であること」としている。このことから、団体名を「ウェルネス」と「スポーツ」を掛け合わせた造語を冠した「ウェルネススポーツ鴨川」(略称:ウェルスポ)とした。これまでに南房総エリアのサイクリング関連イベント「鴨川サイクルまつり 2019」、パラスポーツの体験イベント「ウェル KAMO X' MAS GAMES2019」、「鴨川サイクルロゲイニング 2020」などを主催している。

※地域スポーツコミッションとは(参考:スポーツ庁ウェブサイト)

スポーツと、景観・環境・文化などの地域資源を掛け合わせ、戦略的に活用することで、まちづくりや地域活性化につなげる取組を、各地で推進している団体のこと。おもに地方公共団体とスポーツ団体、観光産業などの民間企業が一体となって組織される。

この取り組みを貴社のメディアにてご紹介いただけましたら幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

【当リリースに関するお問い合わせ先】

一般社団法人ウェルネススポーツ鴨川 担当:岡野

千葉県鴨川市太尾 866-1

電話:04-7092-1114/E-mail info@wellspo.jp